

会議録

1 附属機関等の会議の名称

令和5年度第2回丹波篠山市認知症対策会議

2 開催日時

令和6年2月19日（月）13時30分から15時00分

3 開催場所

丹波篠山市民センター2階 催事場1・2

4 会議に出席した者の氏名（敬称略・順不同）

（1）委 員 高山和子（会長）、酒井清隆（副会長）、栖田道雄、福井辰彦（欠席）、坂本利恵、池岡久雄（代理：常石裕貴）、熊谷進（代理：山根節代）、前川洋一、陰山浩美、林良輔（代理：高平佳代子）、森田昌裕、森本亜希、山本泰晴、奥山彩子（欠席）、宮城佳弥、吉田久仁子

※新委員紹介：篠山警察署刑事生活安全課大島秀夫委員から池岡久雄委員へ

（2）執行機関 丹波篠山市役所長寿福祉課 松本 ゆかり、水口 優子、坂本 和子

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

公開

7 会議資料の名称

- ・令和5年度第2回認知症対策会議次第
- ・令和5年度みんなで認知症を考える月間事業について【資料1】
- ・チームオレンジの構築に向けた取り組みについて【資料2】
- ・認知症ガイドブックについて【資料3】

## 8 会議内容

### (1) 開会

### (2) あいさつ

- ・会長あいさつ

### (3) 報告事項

- ・令和5年度みんなで認知症を考える月間事業について【資料1】
- ・チームオレンジの構築に向けた取り組みについて【資料2】

(事務局) 資料に基づき説明

(会 長) 資料説明に対して、御意見等ありましたらどなたからでもお願いします。

(委員 J) 実際、チームオレンジのコーディネーターは難しいと思います。今年度は、どのくらい対応されたのか伺いたいと思います。

(事務局) まだ、実際にチームオレンジとして活動するに至っていない状況です。今年度は土台作りとして、チームオレンジの一員として活動いただけるステップアップしたサポーターを増やすために、認知症サポーターステップアップ研修を開催しました。

今後、認知症の方とステップアップしたサポーターをマッチングし、実際に活動していただけるよう関わっていくことを考えています。

(会 長) 資料2にあります「取り組みの結果」のところで、認知症カフェの手伝いやキャラバン・メイト養成講座を受けた方々がキャラバン・メイトとして活動されること、見守り支援サポーターへの登録などが書かれており、少しは進んでいる様に思いますが、実際に希望される方々の活動につながるマッチングをしていただけるということですか。

(事務局) 今年度は土台を作る取り組みをしました。今後はステップアップしたサポーターの方々の希望を伺いながら、活動の場を広げていく取り組みを考えているところです。

(会 長) 包括の立場でマッチングする側に立たれると思いますが、どのようなイメージを持たれていますか。

(委員 N) 認知症地域支援推進員研修では、チームオレンジは小さな単位で、当事者の望みを実現することもチームオレンジの活動であることを学びました。

そこで、西部地域包括支援センターでの取り組みを紹介します。

1事例目は、健康課で気になる方がおられ、健康課と長寿福祉課、西部地域包括支援センターが支援を進め、自治会での認知症サポーター養成講座を開催しました。21名の方は初めての受講で、認知症に関する理解をしていただけるきっかけになったと思います。

2 事例目は、ヒッチハイクをして買い物に行かれる方で、地域での困りごとになっていました。自治会で認知症サポーター養成講座を開催した時に、買い物支援について紹介しました。自治会では安全に買い物が出来ないかと、継続して取り組んでいただいているという状況です。この取り組みがチームオレンジの活動かどうかはわかりませんがこのような小さな取り組みから進めていこうと思います。

(会 長)           ありがとうございます。事例報告がありましたが、今後どのようにマッチングを進めていくのか、また、具体的に担当者が一人でできるのかなどが知りたいところですが事務局としていかがですか。

(事務局)           地域包括支援センターの動きは、地域の理解者を増やす土台作りと理解しています。チームオレンジは見守りも大事ですが、そこから一歩進んで個別の関りができる、ステップアップしたサポーターを、チームオレンジの一員として増やしていきたいと思っています。まずは私たちと地域包括支援センターが協力し、チームオレンジのメンバーとして活動できる、ステップアップしたサポーターを増やし、次に具体的なニーズとマッチングしていくことを進めていくことになると思います。

(会 長)           今の説明を聞いてご意見等ありましたらどなたでもお願いします。

(委員 C)           これからの行動の方向性として、どこが取りまとめるのか、取りまとめる人がコーディネーターだと思うが、例えば認知症カフェの手伝いをしたいという人や私は見守りでと思っている人のその気持ちをどこで伝えて、だれが繋ぐのかなどのオペレーションをしてくれるシステムがどうなっているのでしょうか。

(事務局)           どこが指揮を取るかが大事なところで、まず、長寿福祉課が把握し地域包括支援センターと連携し、マッチングを進めていくことになるので主は長寿福祉課になります。

(会 長)           まだこれから固めていく内容だと思います。今年度 1 回目の開催からチームオレンジについては検討している課題であります。活動したいたという人が何人か出てきており、是非早急に取り組んでいただけるよう具体的に進めてもらいたいと思います。  
これは報告事項として、今後も取り組んでください。

#### (4) 協議事項

##### 1) 認知症ガイドブックについて【資料3】

(会 長)           協議事項に入ります。

認知症ガイドブックを新しく作り直そうというところで、説明を受けた後、質疑応答を受けたいと思います。

現行のガイドブックと見比べながら、そして、新しく改定される予定のガイドブックの案について、ご検討いただきたいと思います。

それでは、事務局説明をお願いします。

(事務局)

今回認知症ガイドブックを見直すことになりました。改定理由は資料3に記載していますように、①軽度認知障害（以下「MCI」という）の段階で気づき、対応することで、認知症の進行予防になることを伝えるため②認知症のある方の思いを尊重した支援を行うことの大切さを伝えるため③認知症の症状の状況に合った支援体制を、本人やその家族が理解しやすいようにするためということです。

認知症ガイドブックの主な変更箇所については6か所挙げさせていただいています。

まず、①MCIと認知症の違いの具体化ということで、認知症で大事なことは、早期発見と言われています。MCIの段階で気づき対応することで、認知症を予防出来たり、認知症の進行を遅らせることが出来ると言われています。しかし、MCIは日常生活や社会活動に影響しないため、多くが見落とされているのが現状です。

誰もがなり得る可能性がある認知症を我が事として捉え、MCIについて理解していただいて早期発見、早期対応の重要性を伝えたいという思いから、MCIと認知症の違いをより具体的に新しいガイドブックで示すようにしました。

②予防についての記載を明確化ということで、普段の生活習慣を見直すことが認知症予防につながるという意識付けにつながるように前回よりも目につきやすいように生活習慣病のところを大きく掲載しています。

③早期受診のメリットを追加ということで、やはり認知症になったら終わりではなく、早く受診することで進行を遅らせることができるということを知っていただくために、早期受診のメリットを追加します。

④家族の気持ちの追加ということで、やはり認知症のある方だけではなく、家族の気持ちにも葛藤があることを理解し、双方の気持ちに寄り添うことも大切であると考え、今回、家族の気持ちを追加しました。

⑤認知症のある方の意思決定支援について、認知症になっても、その人らしく心豊かに暮らせるように、本人の意思を尊重していく必要があるということを伝えられるように追加します。

⑥認知症の進行と支援体制（認知症ケアパス）の項目の表現の仕方と内容を変更ということで、認知症の進行箇所が現行のガイドブックでは難しい表現で書かれておりましたが、今回見る側も分かりやすいよう、表現の仕方を変えております。以前は「認知症発症期」「症状多発期」などという言葉が書かれておりましたが、今回はその部分を分かりやすい表

現に直して書くようにしました。

あと、現行のガイドブックでは、本人の気持ちの変化が書いてあるのですが、今回はその段階に応じて、家族が何をすればいいのかというところがポイントになっています。あとは全体的に出来るだけ文字数を少なくして、見やすいように工夫しながら、今回のガイドブック改定版を作成しました。

委員の皆様を確認していただきたいポイントとして資料3に書いているので、皆様のご意見をいただきたいと思います。

本日の会議に欠席されている委員の方からいただいた御意見を紹介します。

①ガイドブック案の認知症を理解しようというところの図の中で、行動心理症状のところに「徘徊」と書かれているが、今は「一人歩き」と表現されている状況がある。「徘徊」という言葉の方が分かりやすいこともあるが、やはり「一人歩き」という言葉で表現し、括弧を使い「徘徊」という言葉を入れるなどの表現の仕方を考えた方が良いのではないか。

②認知症の人と家族を支える社会資源の欄の見守りのところで、緊急通報体制整備事業の一人暮らしや高齢者世帯の方に緊急時の連絡用として機械を設置しますとあるが、機械がどのような物かが分かりづらいので、イラストなどを入れた方がいいのではないか。

③本人・家族支援のところの認知症初期集中支援事業で、「認知症が疑われる人やその家族の居宅を訪問し」と書かれているが、居宅を訪問するのが誰なのかをはっきりと書いておいた方が安心につながるのではないか。

④チームオレンジについて、丹波篠山市の状況にあったチームオレンジを作っていたらいいのではないか。との内容でした。

ガイドブックにつきましては、活用する場として、今回はMCIというところに焦点をあてていることから、出来るだけ早い段階から、認知症のことを知っていただきたいという思いもありますので、やはり認知症サポーター養成講座や介護セミナーなど、入り口のところから活用し、周知していただこうと思っています。

今使っている「認知症を知ろう」というパンフレットが残っておりますので、これを使い終わった後、認知症ガイドブックを活用していきたいと思っています。また、「気づきシート」を認知症ガイドブックと一緒にセットでお渡しし、チェックシートを使いながら、早期発見につながれたらと思います。また、出来るだけお手に取っていただけるように、医療機関や薬局などにも設置させていただけたらと思っています。

(会 長) それでは、皆様に御意見をいただきたいと思いますが、その前に1認

知症を理解しようのところの図で中核症状の失行・失語の説明の内容で服の着方が分からないが正しい説明であると思うので修正をお願いします。

事務局からの説明では、MCI と認知症の違いを具体化ということですが、認知症ガイドブックの改定案をみていただいて御意見等をお願いします。

(委員 C) 若年性認知症のところですが、現行のガイドブックの中にある「見逃さないで！若年性認知症のサイン」これは大事だと思うので、この部分は改訂版にも入れていただいた方が分かりやすいと思います。

「認知症に早く気づこう」の表現は現行の方が分かりやすいと思います。

「上手に受診するために」の所では、出来るだけ同居している人や、認知症が始まる前の本人をよく知っている人とが一緒に受診してくださいと伝えることが大事だと思います。

「認知症の人と家族を支える社会資源」のところでは、不安な状況であれば、まずは市に相談してくださいと初めに言ってしまう方がいいのではないかと思います。

(会 長) ありがとうございます。他に御意見等ございませんか。私からよろしいですか。MCI のところの図ですが、認知症の進行にともなう説明内容で年相応のもの忘れと軽度認知障害のところに日常生活に支障がないと書かれており、説明内容が同じ内容になっているので、違いを明確に表現した方がいいと思います。

現行のガイドブックの MCI のところで使われている図は分かりやすいと思います。今回の改定目的として MCI と認知症の違いということですので、このところをもう少し分かりやすく改善する必要がある。

委員 C さんが言われたように、上手に受診するために、気づきのシートを今回から一緒に渡されると言われていたので、気づきのシートを活用しようという文言もいれるとよいのではないかと。他の皆様の御意見も聞いていきたいと思います。

(委員 L) 出された意見はその通りだと思いますが、全体的に分かりやすいと思いました。

(委員 A) 今までに出た意見以外に問題はないと思います。

(会 長) 委員 H さんはガイドブックを活用されていますか。

(委員 H) 正直あまり活用出来ていません。早期受診が出来ない方が多いので健康診断のように気軽に受診できる方法があればと思います。受診につながるようなキャッチフレーズみたいなものがあればいいのではないのでしょうか。

(委員 A) 前回にも出しましたが、気づきシートを医師会を通して置いてもらっ

たらと言っていたと思いますので、よろしくお願いします。

(会 長)

事務局は、対応をよろしくお願い致します。

(委員 I)

認知症かなと思っても受診してもらえない現状があります。軽度の方の事例があると気づきやすいのではないかと思いますので、この気づきのシートやガイドブックでいろんな症状が事例で紹介されていると、家族は判断しやすいと思いました。

(会 長)

ありがとうございました。分からない方にこそ理解していただく内容でなければガイドブックの意味がないと思います。経験がある人もない人も含めてですが、困っている人が少しでも受診につながるような内容が求められると思いますので、当事者や家族、介護する人にも意見を聞いてみるのも良いのではないかと思います。

(委員 O)

見守りサービスの配食のところですが、見守り弁当サービスに名称が変更されていますので修正ください。

(会 長)

制度が変わり、名称を変更されているので修正をお願いします。

認知症カフェのところですが5か所あるが、何月何日現在と記載するのはどうでしょうか。また、認知症カフェの説明文のところで、「どなたでも気楽に立ち寄れる、みんなのつどい場です」の部分の表記を、別に記載される方が分かりやすいと思います。

(委員 C)

認知症カフェのところで、今回の記載だと家族が癒されることが印象づけられてしまうように思います。勿論その役目もあるが、認知症カフェは認知症の方にもメリットがあるためのものです。この記述だと家族の方だけが行って、お話してホッとして帰ってくると思うように見えてしまうのではないかと思います。

それから、権利を守るところの人生会議ですが、具体的にどう動けばいいのか、エンディングノートは何処でもらえるのかななどの説明があればいいですね。

全体にすごく短く端的にまとめられていると思うが、ところどころ逆に言葉が足りなくて伝わり難いのではないかとということが全体的に言えると思います。

MCI のところも、端的に言うならば、MCI は日常生活はなんとか出来ているけれど、社会生活ではいろんなトラブルも起きているので、具体的な事例を紹介して、早く気づいてもらえるような機会になればいいと思います。

(会 長)

ありがとうございます。

MCI の表記の仕方のところも、意見がありましたが、若年性認知症についても、若年性認知症のサインなども記載し、早期発見につながるように検討していただければと思います。

委員 E さんは初めての参加ですが、相談に行かれて、このようなガイド

ブックを見た時、どのような感じを持ちますか。

(委員 E) 家族としては、「まだ話も通じるし大丈夫かな」と思い、本人から「大丈夫」と言われると、受診することをためらいます。身近な人から「ちょっと違うね」と言われたので「やっぱりそうなんか」と思いましたので、どうしていいか分からず市役所へ相談し、地域包括支援センターから紹介してもらい受診することができました。客観的にこのように認知症の症状が書いてあるのを見ると普段から身近にいる人達が認知症の症状があるのではないかと気づけるので、ガイドブックは大事だなと思います。

(会 長) ありがとうございます。なかなか家族の立場では、病院に本人を連れていくことは難しいことがあります。丹波認知症疾患医療センターの報告では、自分から受診される方は本当に初期の方で、不安だから受診される現状のようです。重度になればなるほど受診率が下がっているようです。受診に繋がらない人達にこそ、医療とつながって欲しいのですが、今後の課題ですね。

そういう意味では、本人・家族支援のところで「高齢者こころの相談」を毎月開催していますが、訪問での相談対応も出来ることを付け加えることで、家族支援につながるのではないかと思います。

意思決定支援のところでは「人生会議」があるのですが、この辺りももう少し見直しが必要だと思います。

(委員 C) 家族の気持ちの変化が、第1ステージから第5ステージに分けて状態が書かれていますが、さらにその状況に応じた対応方法を加えることで、より家族の気持ちが理解できると思います。

そこまで親切に伝えることで、認知症サポーターや地域で見守る方々の活動にも活かせることになると思います。

(会 長) ありがとうございます。他に御意見等ありませんか。

(委員 I) ガイドブックのはじめにのところで、データがありますが、これって一番最後でもいいのかなと思います。このデータは丹波篠山市のデータではないので、もしも載せるのであれば丹波篠山市のデータを載せた方がいいと思います。何処へ相談したらいいとか、どのように対処したらいいのかという情報の方が知りたいところなので、その辺りを一番最初に載せた方がいいのではないかと思います。

(会 長) ありがとうございます。委員 K さんどうでしょう

(委員 K) ガイドブックをどの立場で見るかということで違いはあると思いますが、認知症の方だったり、ご家族の立場で見ると7番の上手くかかわるためにとか8番の家族の人の気持ちの時に、介護の場面でしんどくなる表現ではないかと思いました。具体的な対応のアドバイスなどが書かれていたら、気持ちが軽くなるのかなと思いました。

- (会長)           ありがとうございます。  
貴重な意見だったと思いますので検討をお願いします。  
委員 P さん予防の所では如何でしょうか
- (委員 P)       認知症予防のところでは、生活習慣病予防がいかに大切かというところであり、早いうちからの生活習慣病の対策が重要であるというところを言われているので、ここに載せる内容としてはこれでいいのではないかと思います。  
セミナーなどで地域包括支援センターと一緒に活動することがあります。いろんな資料から生活習慣病のことなども話をしているので、ガイドブックを使いながら、ポイントなど話が出来ればいいのかと思います。もう少し具体的に表記されるとよいと思います。
- (会 長)       ありがとうございます。  
認知症を予防するための生活習慣病について書かれていますが、この内容が上手く繋がるような書き方がいいなと思います。生活習慣病が認知症のリスクを高めることになるので、社会資源のところで、予防の取り組みが書かれているので理解できるのですが、社会資源の予防のところに生活習慣病に関係するような項目が書かれていてもよいのではないかと思います。
- (委員 N)       確かに、認知症サポーター養成講座で使うテキストの「認知症を正しく知ろう」には予防について4ページも使われています。ガイドブックを介護セミナーなどで使うのであれば、予防の説明がもう少し詳しく書かれている方がよいのかと思います。もしくは、「認知症を正しく知ろう」を使って説明することも有効だと思います。
- (会 長)       最後の進行と支援体制のところは、現行とかなり変更されていますが、介護保険に関することは介護保険ガイドブックをご覧くださいと書かれているので、関係のあるパンフレット等はどのように記載するのも一つの案だと思います。  
現行よりはシンプルになっているように思いますが、表に書かれていることが、ガイドブックのどこに書かれているのかページが書かれていると分かりやすいと思いました。  
個別に御意見がありましたら、後日事務局へお伝えいただければと思います。  
それでは、最後にその他のところで事務局から連絡事項がありましたらよろしくをお願いします。
- (委員 N)       前回の対策会議で認知症カフェの立ち上げについて進捗状況をお尋ねいただきましたが、今回「きく・かたる寺カフェ」という認知症カフェが新しく開催されることとなりました。紅葉で有名な「大國寺」で開催されます。3月18日(月)にプレオープンされます。

また、今田町の認知症カフェについては、次年度の取り組み課題とさせていただきます。

(会長)           ありがとうございました。

今年度で現在の委員は任期が終わります。ガイドブックについては、担当者の方に十分審議いただいて、よりよいものを作ってくださいという方向で、事務局に一任という形でよろしいか。

同意いただいたということで、事務局の方でより良いものを作ってください活用につないでいける取り組みをお願いします。

それでは、事務局へお渡しします。

(事務局)       貴重な御意見ありがとうございました。早急に形にしていきたいと思っております。

(5) 閉会       保健福祉部長   あいさつ